

II-2 基調講演

ができるだろうか。イノベーションや都市部の多様な環境は高齢者にとって有利に働く。都市は高齢者の多様なニーズを満たすことができる。しかし、都市の貧困、格差社会、スラムなどの不均衡、暴力、犯罪など、都市には社会的な問題も存在する。都市は女性にとって安全な場所ではない。安全な「まち」を実現することは、脆弱な高齢者にとって非常に重要な課題だ。ソーシャルメディアによって人々のコミュニケーション、さらに政治論争のやり方さえも変わった。

政治面では、都市化は政治論争のテーマにもなる。また、バンコクや香港、ニューヨークでデモがあったように、公園などの公共空間は政治的な論争や変革をもたらす。地方分権化は以前より前進している。

環境面では、地表の2%を占める都市が、75%の資源を利用し排出している。大気汚染によりGDPの2~4%の損失をもたらす。また交通渋滞は悪影響をあたえ、都市の危険性と脆弱性は増大している。都市で災害が起こった場合、被害は甚大なものになる。なぜなら資産は都市に集中しているからだ。さらにはLow Elevation Coastal Zone (LECZ)、つまり海拔が10メートル以下の海拔の低い沿岸地域に、アジアの都市の50%以上が位置しており、海面上昇や気候変動による影響に非常に脆弱だ。都市のスプロール化も続き、都市がどんどん広がっている。他の地域とつながりをもつコンパクトシティが必要だ。持続可能ではない消費と生産、使い捨て文化が変わらないといけない。

＜都市のサービスと障壁、都市の貧困＞
仕事、ガバナンス、訓練、土地の保有権、

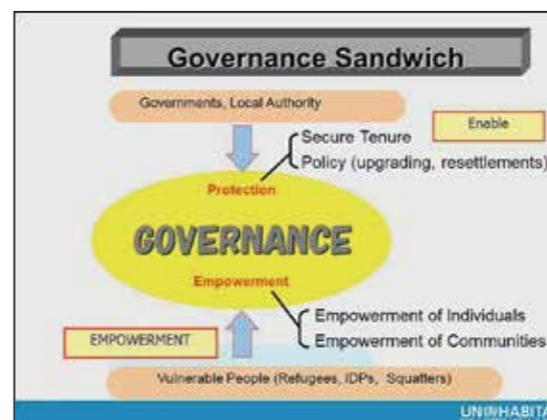
衛生教育など、都市にはすべてのものがある。しかし、貧しい人々、弱者、障がいがある人々、高齢者、女性の周りには障壁があるため、このような都市のアメニティやサービスを利用できない。この障壁とは、無秩序、時には腐敗、政治的意図の欠落、訓練不足、計画不足、違法な居住者であるということ、選挙権がないことなどがある。だから、地方自治体、国連、中央政府はこれらの「障壁」を撤廃する役目をし、貧しい人々、高齢者、障がい者が都市のアメニティを利用できるようにすべきだ。それにはまず、障壁が何かを特定することが重要だ。

貧しければ、安全な水が手に入らず、衛生状況も悪く、家も居住に適していないから病気になる。病気になれば、公共医療サービスを利用できないため、非常に高い医療費を支払わないといけない。そこでどんなに小さな家でもそれを失うことになり、財産を失う。これが貧困の悪循環だ。自治体はこのような貧しい人々に対応する必要がある。

＜国連ハビタットのアプローチ＞

都市における公平を保障するためには、「ガバナンス・サンドイッチ」が必要だ。サンドイッチに例えると、上のパンは政府、地方自治体、市役所だ。役所には適切な政策と計画がある。そして下のパンである地域社会、とくに弱者や高齢者をエンパワーし地域の力を強化し権限を与えることが必要だ。それにより地域社会は地方自治体と対等な立場で対話できる。サンドイッチの中身にあたるのが、私たちが推進すべきガバナンスだ。

地域社会や、発言権がない高齢者、社会から取り残された人々をどのようにエンパワーすればよいだろうか。国連ハビ



タットではPeople's Process(ピーポーズプロセス)という手法を活用している。これは住民を意思決定、活動、責任の主体にするもので、住民参加とは異なる。住民が国連の活動に参加するのではない。国連など外部が地元のシステムに参加するのである。

国連ハビタットがアジア太平洋地域の国々にタイの最良事例として推進しているバーン・マンコン・プログラム(Baan Mankong Program)もよい例だ。ピーポーズプロセスとは、地域社会を組織化し、地域社会で行動計画を策定し、コミュニティ請負制度を採用するという方法で事業を進めるものだ。アジア太平洋地域の国連ハビタットの活動ではほぼすべてこの手順を踏んでいる。

このモデルを高齢者にも採用できるだろうか。地域レベルで高齢者に行動計画を策定させ、働いてもらう。そうすることで、高齢者は地域内で尊敬されていると感じることができるだろう。高齢者は建設工事をすることはできないが、地域内で例えばカラオケのような「ソフト」な活動をすることはできる。

＜強固な地域社会と行政の役割＞

免疫システムが健全で、強力であれば病気にかかってもそれほど悪化せず、非

常に早く回復する。だから地域社会をエンパワーする、つまり地域社会の免疫システムを強化することで、災害や気候変動などの危機に直面しても、地域社会自身がニーズに応じて必要な対応を行うことができる。もちろん高齢者のニーズは地域社会のニーズに組み込まれないといけない。

地方自治体にとって非常に重要なのは、連続的なプロセスだ。なぜなら世界も、皆様の都市も、人口動態も、情報技術も、そして社会も絶え間なく変化しているからだ。どのように地方自治体が地域社会に介入する形で変化をもたらすことができるだろうか。地域で得た教訓が皆様の都市の政策となり、そしてその政策の実行には制度改革、能力向上、財源、技術支援、規制の枠組みなどが必要となり、時には、政策が適切に実施されるように条例を変えないといけない。そしてこの持続的に改善するプロセスがうまく回るよう正しい手段と指針が必要だ。しかし社会が変化し続けるので、その変化するニーズに応じて素早く計画を調整しなければならない。

さらには、ユニバーサルデザインの住居やインフラの整備による高齢者のアクセシビリティの向上とともに、地域での介護、医療、地域内で高齢者に権限を与えることのセット、「ハード面」と「ソフト面」の組み合わせが非常に重要なのだ。

＜国連ハビタット提唱の新アーバン・アジェンダ＞

国連ハビタットは世界中の加盟国に対し提案している新しいアーバン・アジェンダとして、スプロール化した都市からコンパクトシティへの変革、混雑した都市から、つながりのある都市へ変わること、そして、分断された都市から、統合された都市と包括的まちづくりへと変わることを推進している。そ